慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ナチス独逸に関する三文献
Sub Title	
Author	加田, 哲二
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1937
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.31, No.2 (1937. 2) ,p.337(179)- 340(182)
JaLC DOI	10.14991/001.19370201-0179
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19370201-0179

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

の問題に關する序論としての著者の新著中に、理論的にも歴史的にも全くこの點を看過して居られるやうに見へ、且つ少くともこの點を明確にして居られないことは、私の最も不滿足に感ずる所である。

――昭和十二年一月十六日稿――

ナチス獨逸に關する三文献

加田哲二

一　飯澤章治編　ヒットラア政權の表裏

二　大塚虎雄著　ナチ獨逸を往く

三　電報通信社編　獨逸大觀

日獨防共協定が成立してから、わが國において、ナチス・ドイツの國情に關する研究心は、多少昂揚したやうに思はれる。それには二つの立場がある。第一に日獨防共協定の成立を祝福し、ナチス・ドイツのファッショ的傾向に學ばんとするもので、第二は、このナチス・ドイツのファッショ的傾向に恐れを懷いてゐる者が、ナチスが何を爲したか、果して彼等に學ぶべき何ものかを有するかといふ點を研究せんとする者である。しかし、その何れもが、適當の著述なり報告書なりの缺乏に困窮してゐたことは事實である。而して、ナチス・ドイツとの協定がわが國に大きな影響を與へ得ることは、考へられる。それは、ドイツがイギリスとともに、わが政治方面の明治維新以來の教師的地位にあり、殊に、伊藤博文その他のドイツ政治の學習模倣が、わが官吏團の中に、少からずドイツ崇拜または模倣熱を植えつけ、現在においても、その傾向は退潮してゐない事實に徴しても、明かであらう。

かゝる情勢において、ナチス・ドイツに關する正確な報道の出現は、われわれの大きな喜びである。殊に、氣の變り易い人の多いわが國の政治關係者に、ナチス・ドイツの實情を知らしめ、その採るべきは採り、斥くべきは斥くる豫備知識を提供して置くことは、明かに賢明である。ナチス・ドイツに關しては、これまで可成多くの邦書が現はれてゐて、その少部分については、この誌上に紹介したことがあるが、中にはお世辭にも何とも申し上げやうのないものが多いのである。殊に現地を見て來たといふやうな著述の中には、ナチスの行列の勇しいこととか、ナチス大軍の豪勢のこととか、われわれには、何の利益もない極めて下らない種類の現地報告なるものが充滿してゐたのは遺憾であつた。

しかし、こゝに紹介する「ヒットラア政權の表裏」にしろ、「ナチ獨逸を往く」にしろ、さういふ愚劣なものとは、その選を異にしてゐる。

一　「ヒットラア政權の表裏」は、座談會の速記であつて、四百十九頁全部をその速記で塡めてゐる。即ち「大戰後最近まで前後數回に亙つて獨逸を視察して、其の内面事情まで深く研究して來られた旅野氏等の歸朝談を聽くに吾々の從來の獨逸觀、ナチス觀に多少の修正を試みる必要が生じた程生々しい、そして事件の内部に伏在する眞相を知る事が出來た。之は從來吾々がそして多くの人が持つ疑點に幾多の解決を與へるものあるを思ひ、旅野氏等を煩はして座談會を開き、之を一書に纒めて上梓することにしたものである」。（編者の言葉）かくて、この書は生れたのであるが座談者は、旅野・岡島・海野・陸井の諸氏であつて、それを飯澤氏が編したものである。筆者は、失禮な申分であるかも知れないが、座談者諸氏については何事も知らない。あるひは知名人の匿名であるかも知れぬ。しかし、そのことは何等本書の價値を動かすものではない。本書は、ヒットラアの生ひ立ち、その政權の掌握いたり、更らに、ヒットラア内閣の成立・政策・思想・黨組織・諸事件など殆んど最近のドイツの全體に亙つて、語られてゐる。しかも、座談の途中には、種々な綱領・法律の類などの飜譯を載せてゐる點など、普通の座談會速記のなし得ないところを行つてゐる。この點から見れば、これは座談會速記以上のものである。その立場も、ナチスに充分の同情を持ちながら、これを無批判的に支持し、また感激するといふやうな幼稚な態度が見えず極めて穩健である。ナチスの思想についても、全體主義といふ名稱に隨喜の涙を流すといふやうな態度ではない。どこまでも批判的である。更らに事件の記述の如きも、ドイツ新聞の畫一的記事を批判的に扱つてゐるなど、私は、この書を讀んで可成敎へられるところが多かつたのを喜んでゐる。ドイツに對する公正な觀察報告として、推したいと思ふ。

二　大塚虎雄氏の「ナチ獨逸を往く」も、またナチス・ドイツに關する現地報告である。大塚氏が、大每特派員として、ベルリンに着任したのは、ヒットラア内閣の出現の一週間前であるさうであり、昨年六月に歸朝されたさうであるから、ナチス政權の活動施設については、眼のあたり現地にあつて觀察されたのである。こゝに集められた報道は、著者が新聞に書き送つた諸斷章ではあるが、その中にはドイツの外交・對内經濟並に政治情勢、ナチス人物などについての多くの報告がある。この報告も、ナチスに對する狂信的態度ではなく、その客觀的叙述である。殊に、わが國の論者が指摘するところの少ないナチスの資本主義との妥協、またはそれへの後退に關しては、事實を擧げての立證の如きは、讀むべきものであらう。而して、この書の特徵は、ナチス・ドイツを中心としての外交情勢の解說である。私は、この書もまた最近のドイツに關する客觀的な觀察として、またジャーナリスト的才筆を有する興味ある讀みものとしても推したいと思ふ。

三　電報通信社編の「獨逸大觀」は日獨の接近を契機として刊行されたナチス・ドイツに關する大觀であつて、一

の編輯物のと見ることが出來、日獨接近といふ觀點からその編輯がなされてゐる點に特異性を持つてゐる。從つて、その立場は、第一にはナチス・ドイツ的であり、ナチス・ドイツ以前のドイツ、即ち一九一八年の革命以後一九三三年のヒットラア組閣にいたるまでのドイツを自由主義のドイツ、混亂と廢頽の時代としてゐる點において著しくナチス的な見方である。第二にそれは、日獨關係について、日獨防共協定以前の樣相を簡單に記してゐる。これらの特異性は、この書の特徴であるが、同時にあまりにナチス的であるといふことが出來やうと思ふ。本書にはドイツ大使の序文もあり、數多くのドイツに關する寫眞などを掲載してゐる點で、ドイツ大使館の援助を受けてゐるやうに感ぜられるのであるが、その點であまりにドイツ的であり、時として、「わがドイツ」などといふ書き方もあつたやうに記憶する。この點は、批判的にものを見やうとするわれわれには、物足りない觀がある。しかし、ドイツの現狀を大觀する材料としては、利用すべきものがあると考へる。現代ドイツの鳥瞰圖として利用するのには、手頃の本である。

これら三つの著述は、一つは座談會の速記であり、一つは新聞への報道であり、一つは現狀の大觀である。その點で何れも非常な讀み易さを持つてゐる。しかし、それらは、ナチス・ドイツに關する綜合的判斷なり、有機的理解なりを促す程度の足らないところは、一の瑕瑾がある。ナチスに關する批判は、ドイツ國内においては現在不可能であるので、ドイツ國外の資料に求めるより外に致方がない。この方面における英米の學者評論家の活動には、大きなものがあり、わが國のそれは、未だ遠くそれに及はないものがある。しかし、上掲の大塚氏並に飯澤氏の二書の如きは、類書中所謂群鷄の一鶴といはるべきもの、ナチス・ドイツに對する理解を必要とする現在において、われわれの書棚に缺くべからざるものである。

前號（第三十一卷第二號）目次

◉國學の社會思想史的意義　野村兼太郎

◉人口構成に現はれた地域性　奥井復太郎
『三田』社會調査報告第一

◉經濟政策の目的　氣賀　健三

◉アメリカ聯邦の國家的性格と其の財政及び經濟　東井　金平

◉古版經濟書解題　高橋誠一郎
一千六百七十四年版リチャード・ヘインズ著『防貧論』

◉ロバーツ著「ボアギュール」　下田　博
——Hazel Van Dyke Robert, Boisguilbert, economist of the reign of Louis XIV, 1935.——

◉一冊定價金五拾錢
◉半ケ年分金貳圓九拾錢
◉一ケ年分金五圓四拾錢
郵稅金壹錢五厘
郵稅共

◉編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
◉營業に關する用件は發行所宛
◉原稿締切期日は發行の前月十日限

昭和十二年一月廿一日印刷納本
昭和十二年二月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
禁轉載
第三十一卷　第二號

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾内　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目八十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

發賣元　東京市芝區三田二丁目一番地　丸善株式會社三田出張所
電話三田(45)一九二六番　一九二七番
振替口座東京一八五二番

◉尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾内　理財學會
振替口座　東京一八二〇四番　慶應義塾　芝區三田二ノ二